



《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画	
①	フッ化物洗口事業	保育園・幼稚園児は週5回、児童は週1回フッ化物洗口液でぶくぶくがいをする。	フッ化物洗口実施者人数	人	508	496	507	708
②								
③								
④								
⑤								

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H23目標	H24目標	H25目標	H26目標	
			H23実績	H24実績	H25実績		
1	保育園・幼稚園のフッ化物洗口実施率	フッ化物洗口事業実施園の数/保育園・幼稚園の数	%	46.2	46.2	65.4	70
				38.5	38.5	42.3	
2							

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例の主旨に基づき、むし歯予防に効果的なフッ化物洗口事業の普及に努める必要がある。
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、役割が薄れていないか。	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	
有効性 (判定) C	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	
効率性 (判定) A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	他市町村に比べて実施率が低い。H25年度に公立保育園1園で開始しており、H27年4月には100%実施できるよう体制づくりが必要。またH26年度にモデル校(小学校)2校でフッ化物洗口事業実施予定であり、今後全校実施に向けて取り組んでいく予定。
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止    】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	フッ化物洗口事業は、1人1か月あたり約60円で安価で安全に実施できる、むし歯予防効果の高い事業である。H25年度に公立保育所1園で開始しているので、全園実施に向けて取り組めるよう検討していく。また小・中学校については、H26年度からモデル校2校(小学校)で実施し、H27年度からの全園・全校実施に向けて関係機関と連携し取り組んでいく。
昨年からの見直し・改善状況【32】	H25年度に公立保育所1園で開始しており、導入に向けて説明会等を実施し、また園長会等でフッ化物洗口事業推進に理解をしてもらうように説明を行った。また、モデル校2校(小学校)では職員説明会や保護者説明会の実施を予定しており、安心・安全に実施できるように教育総務課・学校と協議を重ねている。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	評価責任者
就学前幼稚園・保育園については、平成27年度スタートで100%実施に向けて推進する。小学校においては、2校のモデルを選定し、実施を推進する。	村上 隆之